

5つのめざす社会



自立した経済が息づく社会

めざす姿⑩

循環する地域経済 地域の課題に応える仕事が次々と生み出され 地域の中で価値が循環する社会

めざす姿⑪

進化する御食国 多様な気候風土を活かして多彩な食を生み出し 地域に豊かな食が行き渡る社会

めざす姿⑫

活動を支える確かな基盤 交流と安全の基盤が整い 自ら危機に備える文化も根付く強靱な社会



自立した経済が息づく社会

循環する地域経済

■兵庫のゆたかさ指標

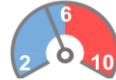
評価の概要

- 「駅前や商店街に活気があるか」及び「地域の企業に活気があるか」は、都市部に比べて多自然地域が大きく下回っている。人口減少も相まって、地域における活気の低下が進んでいることが伺える。
- 「優れた製品・技術・ブランド力を持った企業があるか」は、有名な地場産業を有する地域が高い傾向にあり、地域内では各地場産業のブランドが浸透していることが伺える。

設問32

お住まいの地域の駅前や商店街に活気があると思いますか

全体平均

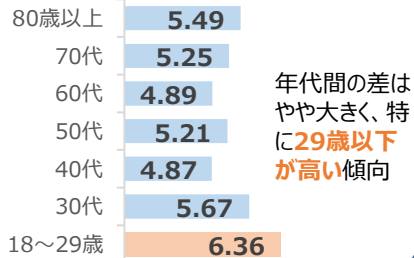


5.27

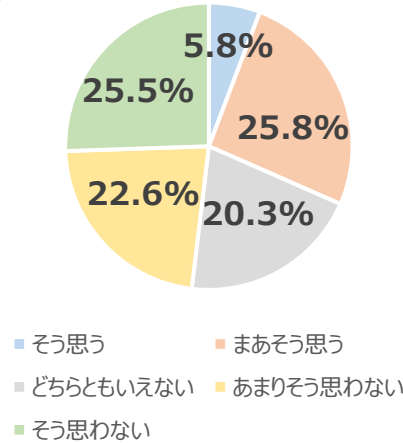
性別



年齢別

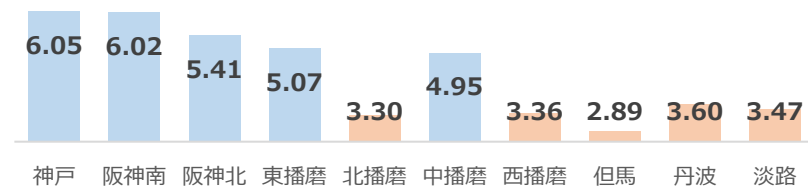


回答割合



地域別

地域による差はかなり大きく、都市部に比べて多自然地域が大きく下回っている



設問33

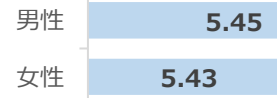
お住まいの地域の企業に活気があると思いますか

全体平均

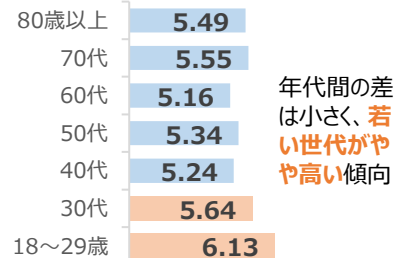


5.44

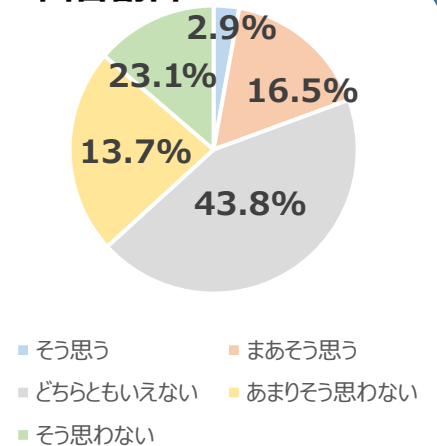
性別



年齢別

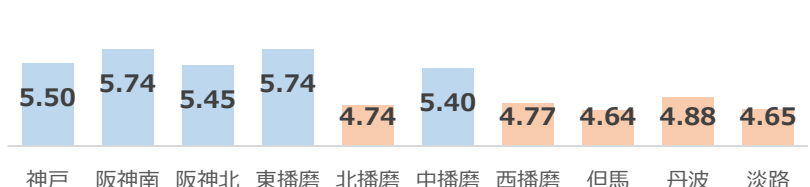


回答割合



地域別

地域による差は大きく、都市部に比べて多自然地域が大きく下回っている





自立した経済が息づく社会

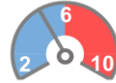
循環する地域経済

■兵庫のゆたかさ指標

設問34

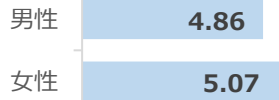
お住まいの地域には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っていますか

全体平均

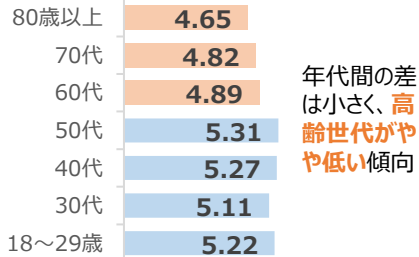


5.01

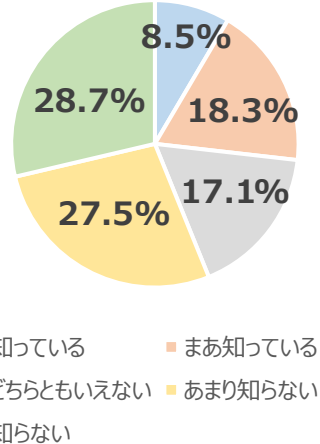
性別



年齢別

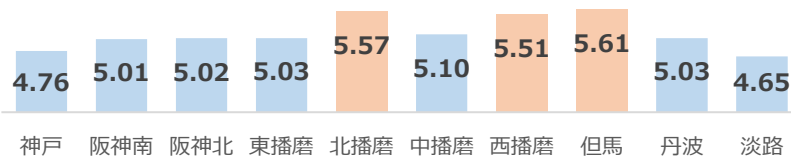


回答割合



地域別

地域による差はやや小さく、**地場産業を有する地域において高い傾向**



■主な県の取組

- SDGsの視点から地場産業のブランド価値や魅力向上を図るため、SDGsの取組による商品開発及びプロモーション活動など、産地組合の取組を支援(R5:14件)
- 中小企業の経営にSDGsの導入を促進する「ひょうご産業SDGs推進宣言事業」、宣言企業の更なるステップアップを図る「ひょうご産業SDGs認証事業」を実施し、中小企業によるSDGsの取組の裾野を拡大(R6認証企業数:362社)
- 地域住民や団体等がビジネス的手法により地域課題解決を図る取組を支援する拠点として「地域しごとサポートセンター」を県内6箇所に設置(R6:56団体が起業)
- 産業の活性化と雇用の創出を図るため、産業立地条例に基づき補助金(設備・雇用・賃料)や税軽減(不動産取得税・法人事業税)により企業の県内立地を支援(R6補助団体数:延べ90法人)



残糸を利用した生地を用いた製品



ひょうご産業SDGsフォーラム



自立した経済が息づく社会

進化する御食国

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「地元の農林水産業の活気があるか」は、29歳以下でやや高いものの、全体として平均的。
- 「地元や県内でとれた農林水産食材を買っているか」は、全体として高い傾向にあるが、30代以下では低く、若い世代の地産地消意識が低いことが伺える。
- 「食品廃棄物を出さない暮らしを心がけているか」は、全体として高い傾向にあり、年齢や地域を問わず、フードロス削減等への意識が広く共有されているものと推測。

設問35

地元や県内の農林水産業に活気があると思いますか

全体平均

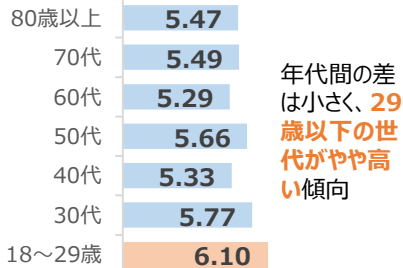
5.50



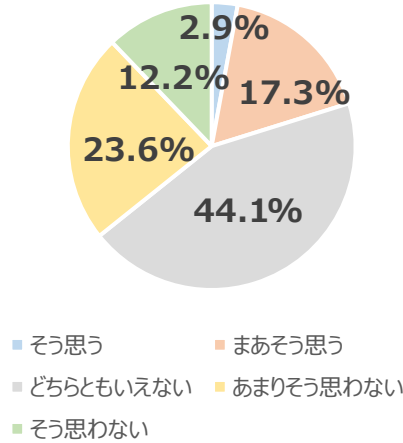
性別



年齢別



回答割合

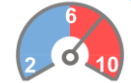


設問36

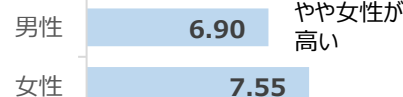
あなたは、地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っていますか

全体平均

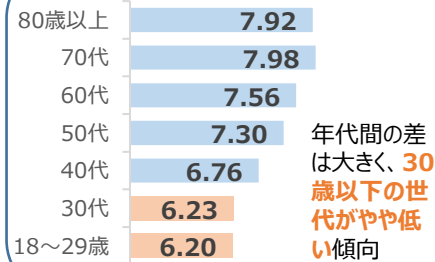
7.33



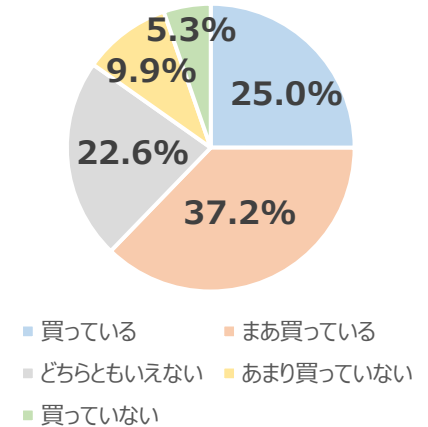
性別



年齢別



回答割合



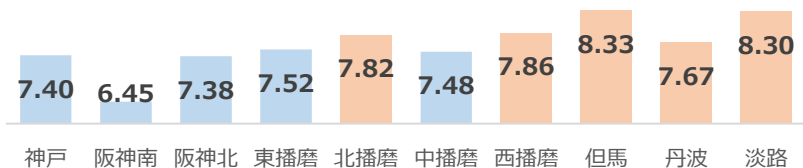
地域別

地域による差は小さく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない



地域別

地域による差はやや大きく、都市部と比較して多自然地域が高い傾向





自立した経済が息づく社会

進化する御食国

■兵庫のゆたかさ指標

設問37

あなたは、食品廃棄物をできるだけ出さない暮らしを心がけていますか

全体平均

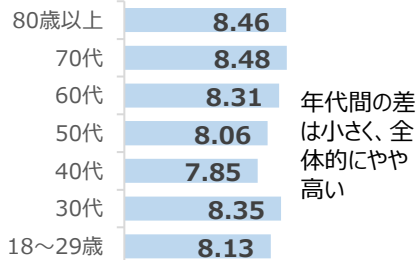


8.24

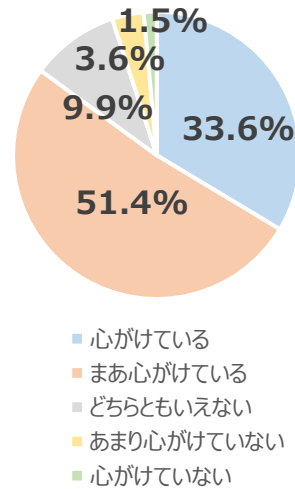
性別



年齢別

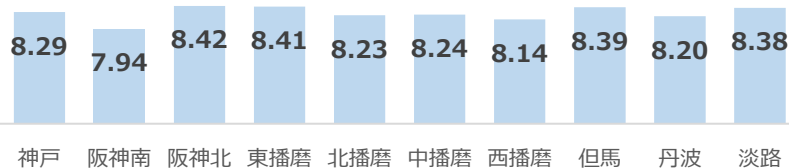


回答割合



地域別

地域による差は大きくなく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない



■主な県の取組

- 県立農業大学校に「経営として成り立つ有機農業」を学ぶコース(有機農業アカデミー)を新設 (R8.4月開設予定) し、有機農業を担うリーダー等、人材育成を強化
- 海外における日本食人気の広がり等を県産品の輸出を進める好機と捉え、アジア、EUをターゲットに、現地シェフ・バイヤーへの営業や食品展示会への出展などのプロモーションを実施(R5 : 31事業者・57品目、R6 : 13事業者、20品目)
- 藻場再生によるブルーカーボン創出の取り組みを推進するため、市民や漁業者に向けたガイドブックを作成
- 豊かで美しい海の創出と継承に向けた取組を推進するため、「ひょうご豊かな海づくり県民会議」をR5に設立し、県民参加型イベントを支援する等、公民連携による県民総参加の運動を展開
- 多額の初期投資が必要となる施設園芸への新規参入・規模拡大がしやすい環境の整備を図るため、JA等が園芸施設等を整備し、新規就農者等へ貸与する取組を支援



有機農業アカデミー教育棟



豊かな海づくり推進大会



自立した経済が息づく社会

活動を支える確かな基盤

■兵庫のゆたかさ指標

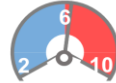
評価の概要

- 「家庭で災害に対する自主的な備えをしているか」は、阪神淡路大震災の被害の大きかった地域で比較的高い傾向にあり、その他の地域においても、改めて防災意識の底上げが必要。
- 「治安が良く安心して暮らせる地域か」は、年齢・地域を問わず平均的に高い。
- 「公共交通は便利か」は、都市部に比べて多自然地域が大きく下回っている。交通の利便性の実感が都市部に集中していることが伺える。

設問38

あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか

全体平均

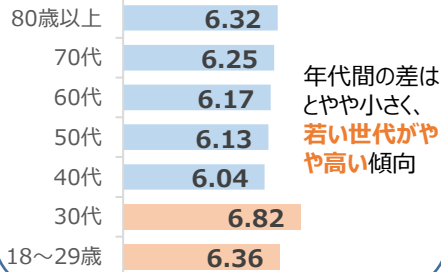


6.24

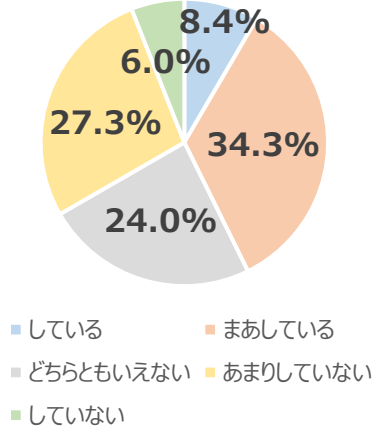
性別



年齢別



回答割合



地域別

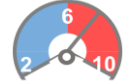
地域による差はやや小さく、比較的都市部が高い傾向



設問39

お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせると思いますか

全体平均

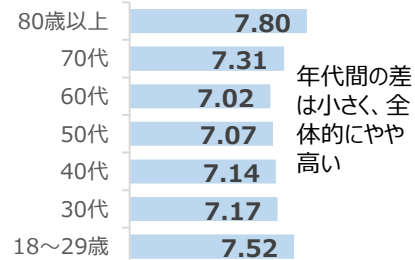


7.25

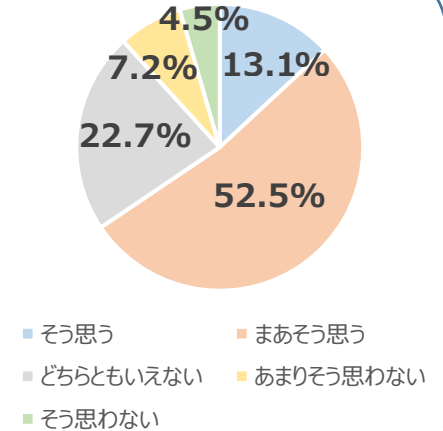
性別



年齢別

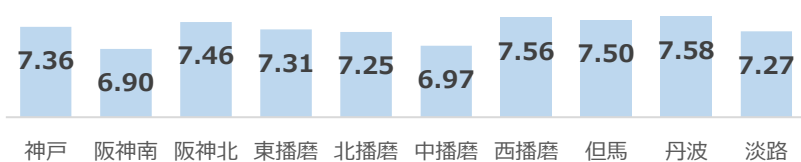


回答割合



地域別

地域による差はやや小さく、わずかではあるが多自然地域が高い傾向





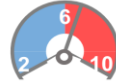
自立した経済が息づく社会

活動を支える確かな基盤

■兵庫のゆたかさ指標

設問40
お住まいの地域の公共交通
は便利だと思いますか。

全体平均

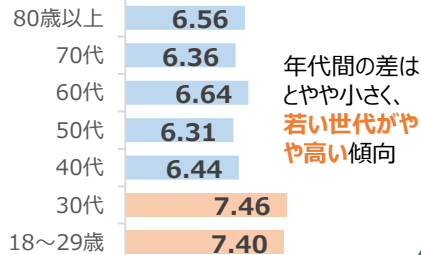


6.61

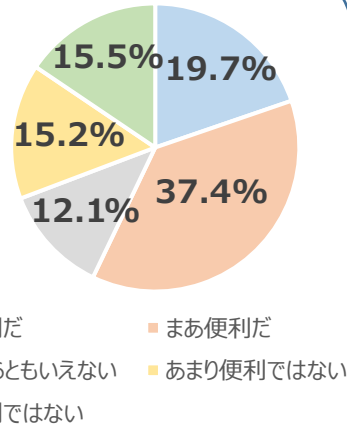
性別



年齢別

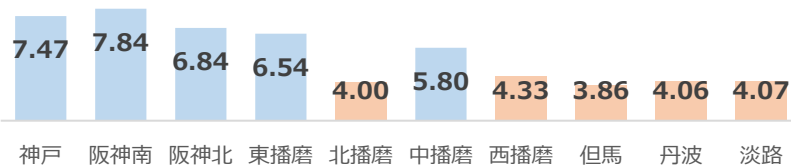


回答割合



地域別

地域による差はかなり大きく、都市部に比べて多自然地域が大きく下回っている



■主な県の取組

- 県の大交流圏を支える高規格道路ネットワークの早期整備を推進
(R7:全体延長916.5km中、開通済781.1km(85.2%)
[R6:776.7km、84.7%]、
整備中52.2km(5.7%)[R6:56.6km、6.2%]、
未着手83.2km(9.1%)[R6:83.2km、9.1%])
- 過去最悪のペースで増加する特殊詐欺被害の対策として、外付け自動録音機の配付や特殊詐欺等を疑似体験する体験型講習会等を実施(R4補助件数：2,428件、R5補助件数：2,700件、R6補助件数:23,218件)
- 阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、犠牲となられた方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を発信するため、阪神・淡路大震災30年追悼式典を実施

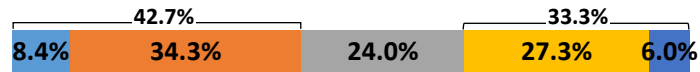


東播磨道(R7.11.30全線開通)



阪神・淡路大震災30年追悼式典

問38 あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか



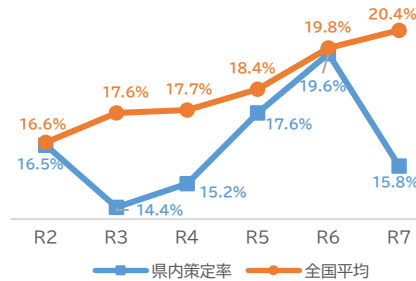
■ している ■ まあしている ■ どちらともいえない ■ あまりしていない ■ していない

自主的な備えを「している」「まあしている」と回答した人は42.7%と一定の割合が災害に備えているものの、半分に留まっており、防災や減災の重要性をより広く周知する必要がある。

◆事業継続計画(BCP)の策定率

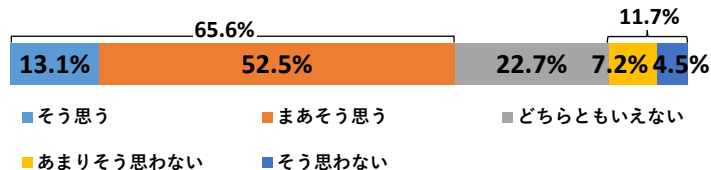
県内企業の事業継続計画(BCP)の策定率は令和3年から令和6年まで上昇傾向にあったものの、令和7年で低下している。

また、全国平均を下回っており、引き続き県内事業者のBCP策定率向上に向けた取組を行う必要がある。



出典：帝国データバンク「事業継続計画に対する企業の意識調査」

問39 お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせると思いますか

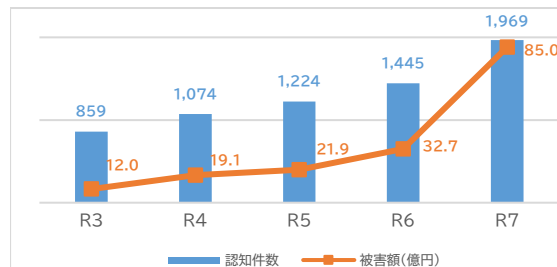


治安がよく、安心して暮らせる地域かについては、全体の65.6%が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、「あまりそう思わない」「そう思わない」の11.7%を大きく上回っており、引き続き多くの方に安心して暮らせる地域づくりに努める必要がある。

◆特殊詐欺の増加

特殊詐欺の認知件数、被害額は増加傾向にあります。

R7年の認知件数は前年比524件の増加、被害額は前年比52.3億円の増加となっています。



出典：兵庫県警「令和7年中における特殊詐欺の情勢と今後の体制強化等について」

防災・減災対策の推進

○ 南海トラフ地震等の大規模災害への備え

- ・災害時の受援体制を構築するため、映像機器の整備等による災害対策本部機能の強化や、全庁及び関係機関が参加する多機関連携型の防災訓練を実施



▲受援スペース(イメージ)

▲多様な関係機関と連携した防災訓練(イメージ)

○ 世代を超えた防災減災活動への発展

- ・創造的復興サミットで取りまとめた『次世代(自分たち)の行動宣言』を踏まえた防災減災セミナー(仮称)を開催

〈主な内容(予定)〉

若者による防災減災活動の優良事例の発表、学生等による意見交換等

進化する犯罪への対応

○ 特殊詐欺等への対策

- ・独居高齢者等の世帯に効果的な防犯対策となる外付け自動録音装置を配付



▲外付け自動録音機(イメージ)

- ・開発中のスマホ向け特殊詐欺検知システム[※]の精度向上を図るため、県民向けの体験会を実施

※スマホに接続するとAIが通話内容を解析し、詐欺の疑いを警告するシステム



▲スマホ詐欺探知機(イメージ)

5つのめざす社会



生命の持続を先導する社会

めざす姿⑬

カーボンニュートラルな暮らし 自然との共生が日々の暮らしに浸透し 地域と世界の持続可能性が高まる社会

めざす姿⑭

分散して豊かに暮らす 自然の豊かさを享受する暮らしが各地で営まれ 大都市集中が緩和した社会

めざす姿⑮

社会課題の解決に貢献する産業 兵庫発の社会課題を解決する産業で 暮らしの持続可能性を高め国内外を先導する社会



生命の持続を先導する社会

カーボンニュートラルな暮らし

■兵庫のゆたかさ指標

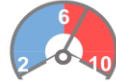
評価の概要

- 「自然環境が守られているか」は地域を問わず全体的に高いことから、山、川、海等をはじめ、都市部でも公園の緑地等も含めて、本県の豊かな自然環境への実感が高いことが伺える。
- 「節電・省エネに取り組んでいるか」及び「環境に配慮した購入行動をとっているか」は、全体は高い傾向にあるが、いずれも若い世代が低く、この年代層への環境意識を更に高めていく必要。

設問41

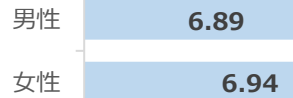
お住まいの地域では、山、川、海などの自然環境が守られていると思いますか

全体平均

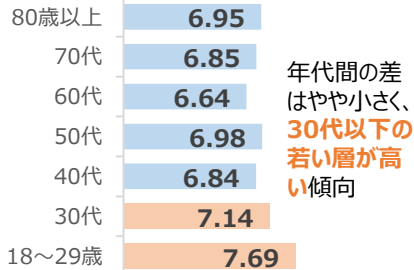


6.90

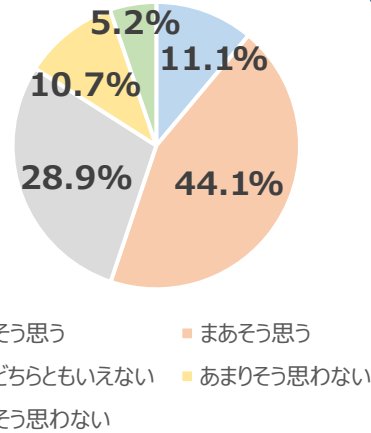
性別



年齢別



回答割合



地域別

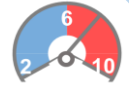
地域による差は小さく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない



設問42

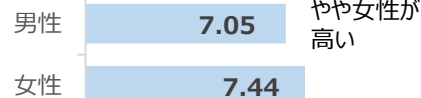
あなたは、日頃から節電・省エネに取り組んでいますか

全体平均

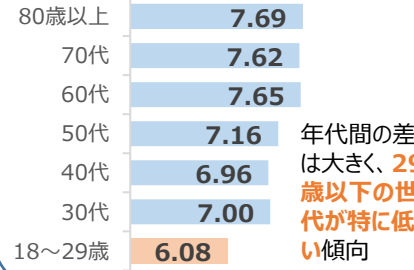


7.31

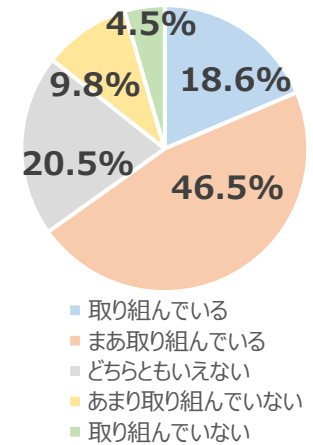
性別



年齢別

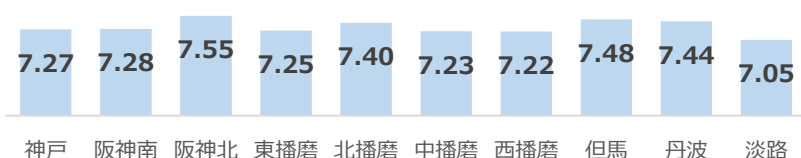


回答割合



地域別

地域による差は小さく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない





生命の持続を先導する社会

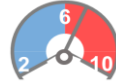
カーボンニュートラルな暮らし

■兵庫のゆたかさ指標

設問43

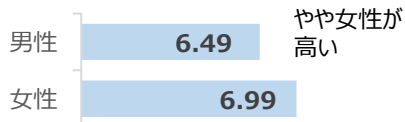
あなたは、製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいますか

全体平均

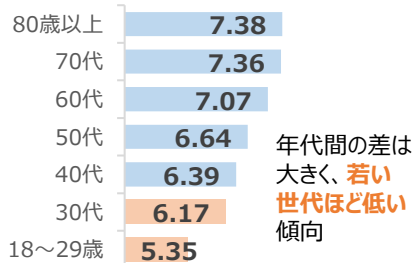


6.82

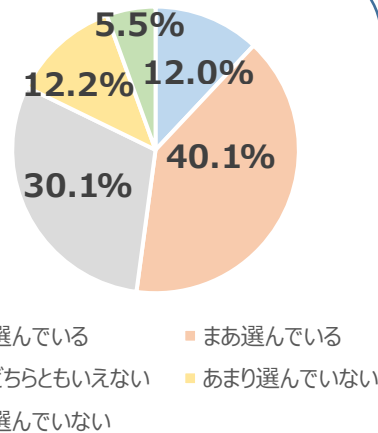
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差はそれほど大きくなく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない



■主な県の取組

- 燃料電池モビリティの普及による脱炭素化の推進を加速化するため、県内の水素ステーションの整備等を促進(実績 水素ST:R2 1件(姫路)、R4 2件(神戸・三木)、燃料電池バス:R2 1件(姫路)、R4 1件(神戸)、燃料電池小型トラック:R7 2件(神戸))
- 再生可能エネルギーの導入促進に向け、住民及び事業者向けに、共同購入支援事業や自家消費型太陽光発電設備等の導入補助を開始。また、里山再生につながる間伐材等を活用した木質バイオマスボイラー導入を推進。地域での再生可能エネルギー導入検討に向けた基本調査補助を実施。(R7: 1件)
(R6 県内再生可能エネルギー導入実績: 約74.5億kwh)
- 県内中小事業者の脱炭素経営に向けた取組を支援するため、脱炭素経営のポイントや省エネ、再エネ導入の実践的手法について学び、行動に繋げるための伴走支援として「ひょうご脱炭素経営スクール」を開校
- 脱炭素と快適な暮らしの両立を目指す「ひょうご1.5℃ライフスタイル」の普及啓発を図るため、ポータルサイトでの脱炭素効果の可視化や身近な脱炭素型商品を活用したイベント等を実施。



神戸空港前水素ステーション



脱炭素経営スクール



生命の持続を先導する社会

分散して豊かに暮らす

■兵庫のゆたかさ指標

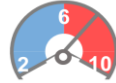
評価の概要

- 「地域に愛着や誇りを感じるか」は、全体的に高い。また、年齢・地域間で顕著な差はなく、兵庫県民のシビックプライドが高い状況が伺える。
- 「住んでいる地域をよりよくしたいか」は70代以上が高いことから、地域活動をけん引する元気な高齢者が多いことも伺える。若い世代の活動参加への機運醸成等が更に必要。
- 「ICTなどで便利に暮らせる社会になっているか」は、多自然地域が低い傾向であり、官民連携による地域DXの一層の推進が必要。

設問44

あなたは、住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか

全体平均

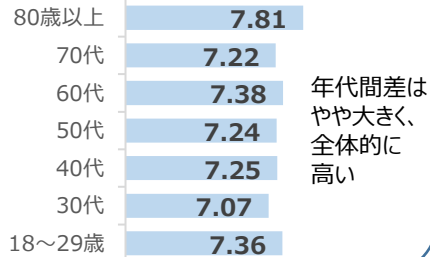


7.35

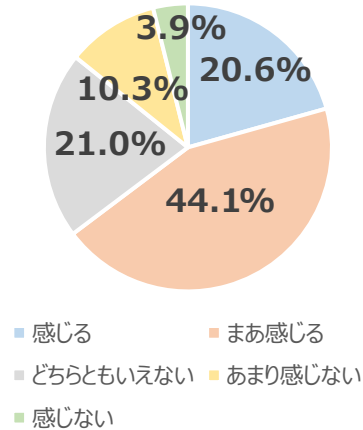
性別



年齢別



回答割合



地域別

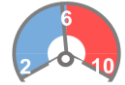
地域による差は大きくなく、都市部と地方部の間に顕著な差は見られない



設問45

あなたは、住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと思いますか

全体平均

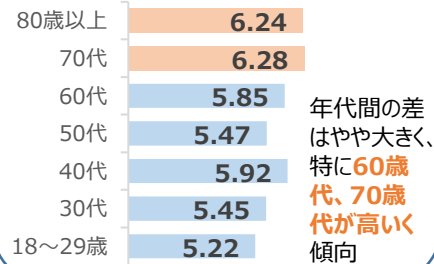


5.83

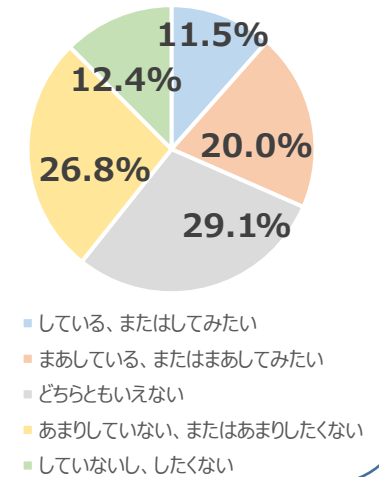
性別



年齢別

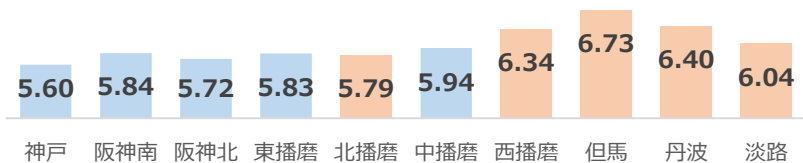


回答割合



地域別

地域による差はやや小さいものの、多自然地域が高い傾向





生命の持続を先導する社会

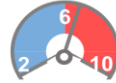
分散して豊かに暮らす

■兵庫のゆたかさ指標

設問46

ICT（情報通信技術）などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると思いますか

全体平均

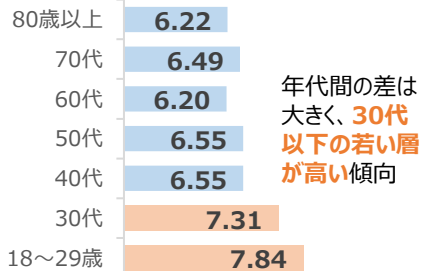


6.56

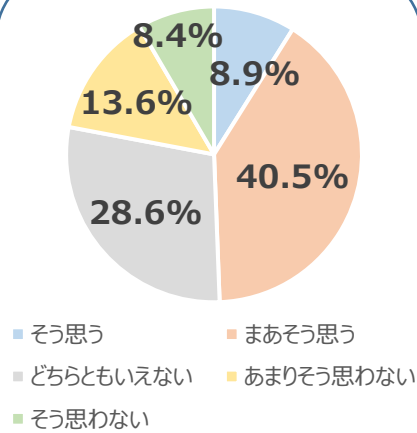
性別



年齢別

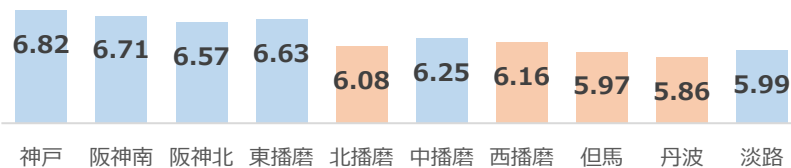


回答割合



地域別

地域による差はやや小さいものの、都市部に比べて**多自然地域が低い**



■主な県の取組

- 関係人口の創出・拡大に向け、多自然地域の地域活動等への参加者受入の相談対応やコーディネートを行う「ひょうご関係人口案内所」を運営するとともに、高い企画力や集客力等を有する民間サービスとの連携を実施
- 多自然地域における持続可能な生活圏の形成に向けて、県と市町の重層支援体制のもと集落の枠組みを超えて広域的に集落機能を支え合う住民主体の地域運営体制の構築、地域伴走支援体制の構築を推進するとともに、①地域づくり支援人材にかかる人材育成事業、②地域づくり支援のためのツール開発事業、③関係人口創出・拡大事業を実施（R7プロジェクト着手市町数：20市町）
- 空家等活用促進特別区域（特区）を指定し、特区における空家の流通・活用に繋がる規制緩和や、古民家の地域交流施設への再生に係る支援を実施（R4指定：2地区、R5指定：3地区、R6指定：3地区、R7指定：1地区）（R8.3時点）
- コロナ禍を契機とした地方回帰志向の高まりや、近年の本県におけるファミリー層の転入超過傾向等の機を踏まえ、東京・神戸・大阪に設置している移住相談窓口「カムバックひょうごセンター」の体制を強化するとともに、主に首都圏の関心層をターゲットとした首都圏での県単独移住フェアの実施やセミナー等の民間委託化・回数の充実等を図り、県内地域の魅力PRを強化（R6相談件数：1,044件）



洲本市城下町地区（R6年度空家等活用促進特別区域指定）

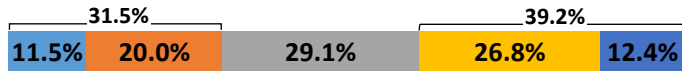


カムバックひょうごセンター

トピックス

交流が拓く地域の未来

問 45 あなたは住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと思いますか

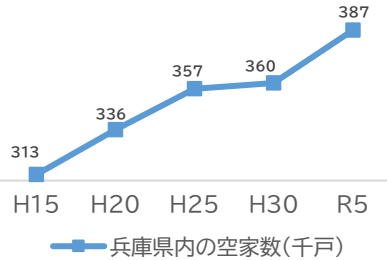


- している、してみたい
- まあしている、まあしてみたい
- どちらともいえない
- あまりしていない、あまりしたくない
- していないし、したくない

18~29 歳	5.22	60代	5.85
30代	5.45	70代	6.28
40代	5.92	80歳以上	6.24
50代	5.47		

住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動について、肯定的な回答をしているのは31.5%で、否定的な回答をした39.2%よりも低い割合。

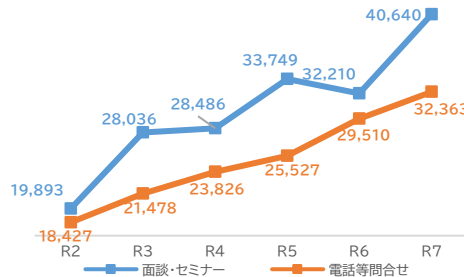
18歳~60歳の点数は5点前半半となっており、多くの年代にとって、地域を盛り上げる活動に関心を持ちにくいことが窺える。



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

◆兵庫県内の空き家の状況

兵庫県内の空き家数は年々増加しています。直近調査の令和5年には、38万7千戸(前回比7.4%増)で過去最多となり、地域の活性化に向けた空き家の活用や、まちづくりとしての取り組みが求められている。

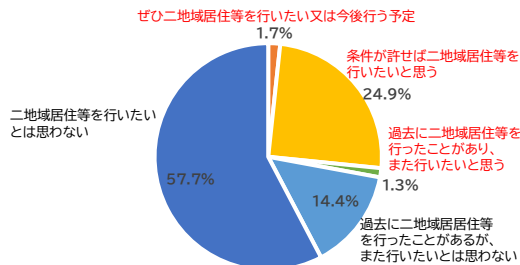


出典：認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター

◆移住希望の増加

地方への移住を支援するふるさと回帰支援センターへの相談件数は年々増加しています。

2025年の移住相談件数は、73,003件で過去最高の件数となりました。



出典：国土交通省「二拠点居住に関するアンケート」

◆二拠点居住への関心

二拠点居住を行っていない者を対象に行った「今後、二拠点居住を行いたいと思うか」という質問で、約3割が二拠点居住を行いたいと回答した。

多様な主体をつなぐ基盤強化

○ 地域創生コラボレーションプロジェクト

- ・県内各地で地域創生に取り組むプレイヤーが出会い、交流する「ひょうご地域創生フェス」を開催し、多様な主体の連携を創出することで、活力を生み出す取組の横展開を図る



▲「地域創生フェス『カケル DAY』」の様子(R7年度)

○ 地域課題解決に取り組む若者への支援

- ・将来の地域づくりを担う若者を育成するため、課題に応じた専門家の派遣等により、課題解決に取り組む若者を支援



▲古民家再生の活動(イメージ)

○ エリアマネジメントによる官民連携まちづくり

- ・エリアマネジメント※による地域活性化を具体化するため、エリアマネジメント団体の認定、立ち上げや活動に対する支援を実施

※特定の区域にて、空き家のリノベーション等によって収益を得ながら地域価値の向上を図る活動

○ シビック・リンク・プロジェクト

- ・地域づくり活動団体(NPO等)を応援したい個人・企業等がその支援方法を選択できるよう、プロボノ※を活用した課題解決支援や、ふるさと納税を活用した資金調達支援等を実施

※職業上有している専門知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動





生命の持続を先導する社会

社会課題の解決に貢献する産業

■兵庫のゆたかさ指標

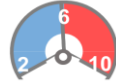
評価の概要

- 「生活の不便さを補うサービスが増えているか」は、30代以下と都市部で高い傾向。これは、新たな技術やサービスにこれらの層が敏感であることが伺える。一方で、それ以外の年代や地域においても適切に享受されるための取組が必要。
- 「社会を先導する新しい産業が活発か」は、全体としてやや低い傾向にあり、県内の様々な取組の情報発信や実践のサポート等が必要。

設問47

お住まいの地域には、生活の不便さを補うさまざまなサービスが増えていると思いますか

全体平均

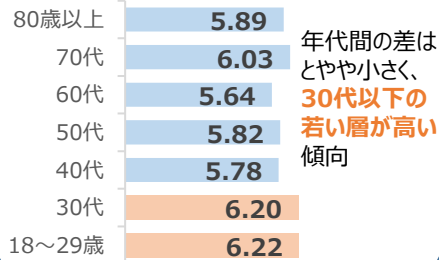


5.90

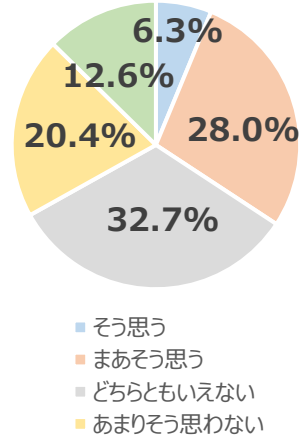
性別



年齢別

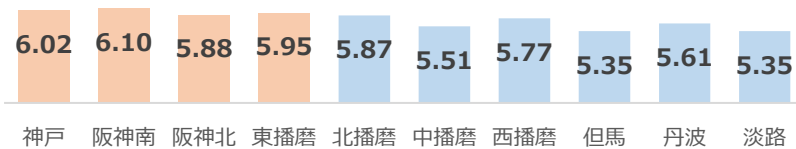


回答割合



地域別

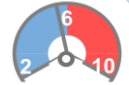
地域による差はやや大きく、**都市部がやや高い**



設問48

兵庫県は、社会を先導する新しい産業が活発な県だと思えますか

全体平均



5.60

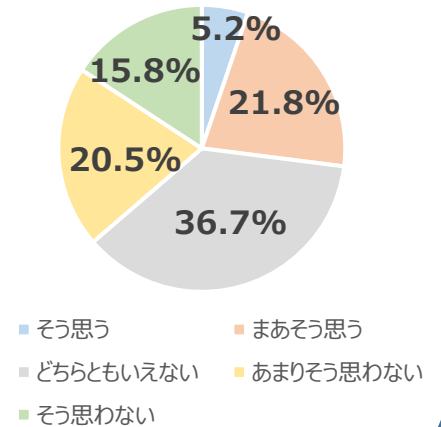
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差はややあるものの、都市部と多自然地域で顕著な差は見られない





社会課題の解決に貢献する産業

■ 主な県の取組

- イノベーションの創出と社会課題の解決を図るため、中小企業や社会課題解決型スタートアップ事業者が有する技術を、市町等が抱える地域課題とマッチングさせる取組を実施(R6実績：18件の課題にスタートアップをマッチング)
- 県内企業や団体、教育機関など多様な主体が連携し、「オール兵庫」で社会的課題の解決と地域活性化の両立を図る公民連携組織として設置した「ひょうごSDGs Hub」を軸として、SDGsを「知る」「取り組む」「つながる」事業を展開(R7.3月末現在: 1,103団体)
- Z世代の感性や能力、企業のノウハウやテクノロジーを活用し、多自然地域の課題解決に向けて、地域団体と、大学や企業等が連携して実践する地域づくり活動を13市町／18地域で支援するとともに、それらの取組の拡大を図るためフォーラム・交流会を実施（約130名参加）
- 空飛ぶクルマの社会実装に向け、事業者による開発を促進するため、県内フィールドを活用した実証事業等を支援（R6実績：6件の実証事業を補助）
- 県内のへき地診療所の医師の高齢化に対応し、へき地医療を維持するため、市町と連携し、オンライン診療の活用に向けた地域実証モデル事業を実施



ひょうご関係人口フォーラム
・交流会



空飛ぶクルマ イメージ図